

育英生からのお便り

日本で一番感じられた文化と

善光寺との出会い

アイーダ・ママードウア

(第二十二回育英生)

私はアゼルバイジャン人のイスラム教徒で、二〇〇九年四月より国立金沢大学大学院医学系の博士課程に入学しているアイーダ・ママードウアです。私はアゼルバイジャンの首都バクーに住み、バクー国立大学の生化学部からその大学院修士課程を修了し、修士のときイギリスに二年間留学しました。

受け育てられた子でした。学校以外に、自分で行けるところは家の近くにある古い図書館だけでした。図書館で働いているお婆ちゃんは私のことが大好きで、いつも一番いい本を薦めてくれました。しかし、ある日、そのお婆ちゃんは私に仏陀の本を貸して、これは内緒で、この本を誰にも見せないと約束しました。その本を読んだ後、仏陀への興味と感心はずつと続きました。そこから、さらに仏教への興味と感心がつながっていきました。

図書館で仏教に関する本ばっかり読み始めて、日本の文化の背景である日本仏教にも興味深くなりました。しかし、日本の文化を本から読んでも、分からなかつた。仏教を知的に理解できない。いくら本を読んでも分からなかつた。大きな壁にぶつかったような感じでした。その壁を乗り越えるために、仏教を体を通して、体験的に学習したいと思うようになりました。そ

私は、子供のころからイスラム教徒の教育を

のために、どんな難しくても、実際に日本へ行って、日本の文化や日本の仏教を体で体験することを強く決意しました。

修士課程を修了したあと、両親の猛烈な反対を押し切って日本へやってきました。日本へやつて来た私は、福井県の永平寺、神奈川県、石川県の總持寺をはじめ、多くの寺院を歴訪しました。そして、これらの寺院を歴訪するうちに、寺院に止宿して、仏教を学習しようという想いがだんだんと募つてまいりました。けれども、この希望は、そう簡単にはかなえられそうにはありませんでした。

私の願いを受け入れてくれたお寺は、石川県金沢市の大乗寺だけでした。大乗寺の東隆眞ご住職様です。東ご住職様は私がイスラム教徒であることを前提として、あなたが希望するならばあなたの仏教への興味と関心を体験的に学習することを、この大乗寺で許可するとおっしゃ

つていただきました。そこで二〇〇七年四月より、私は大乗寺に入り、毎朝午前四時三〇分から坐禅、朝のおつとめ、作務など、ほとんど大乗寺の雲水と同じ生活を学習していました。ある朝、大乗寺できれいな尺八の音が聞こえました。お寺の静かな景色の中で、尺八の音は心を鎮めるように響いていました。私はあの音にびっくりし、尺八の練習をやり始めました。今でも、毎日学校へ尺八をふきながら通っています。

私は大乗寺で生活し、仏教、禅などは神経障害や精神的に崩れた人たちにも、きわめて有効な力を発揮するのではないかと思うようになりました。それで、金沢大学の神経科学や意識の専門分野へ入学しました。しかし、勉強を続けるために経済的に非常に困難な状態でありました。大学で勉強しながらできるだけアルバイトに時間を費やしたくないと考えておりました。ある日、大乗寺で横浜善光寺のご住職様黒田老

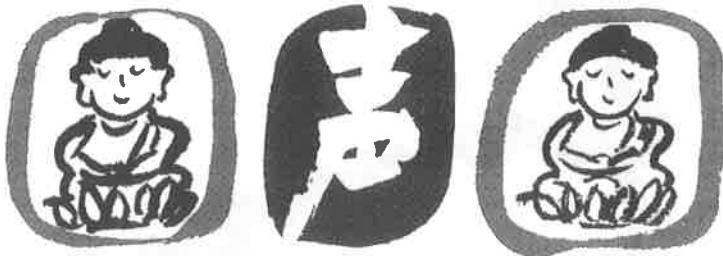
師と出会いました。善光寺には日本で留学している、あるいは日本から海外へ留学している僧達を支える横浜善光寺留学僧育英会があることを聞きました。自分はお坊さんじゃないですけれども、仏教を学びたい気持ちはとても強かつたので、第二十二回育英会になりました。善光寺の育英会に支えられて、助けられました。善光寺と出会うことができてとてもよかったです。

私はさらに日本の文化や仏教を身につけるために、お釈迦様や菩提達磨の教えに基づいて日本武道である少林寺拳法も始めました。毎日大學が終わつたあと、道場へ通つて、稽古し、武道大会にも参加するようになりました。最近、初段の黒帯になりました。また、合気道や居合の稽古も始めました。現在は大学の博士課程の四年生です。大学を卒業した後は、日本で修得した日本の文化を、社会に役に立てるような人

間になりたいと思います。それで、日本や母国アゼルバイジャンの文化的な交流をもっと深めていきたい。社会に貢献できるような人間になるために、まず自分を育てて、自己確立したあと、人びとのことを理解し、世界平和のために役立ちたいと願っています。ありがとうございました。







懐かしい方々の写真が一杯

龍泉院 椎名 宏雄老師 千葉県

『成寿』第四十一号のご恵

与に感謝無極。晋山結制のご

盛筵、心よりご慶賀申し上げ

ます。特に豊富で美しき口絵

は拝見するに懐かしく、篁師

は院生時代の友人、光真寺様

は同安居、大乗寺様は大卒当

時からの知己交友、そして故

武志方丈様は泉岳寺様を通じ

ての交誼でありました。その

また御師父の白純老師は不肖

の実父とは宗議の仲間同志。

俊雄方丈が若き日に侍者とし

て師父様と共に拙寺に来山されたこともあります。皆宗門

の至宝。そして現董が立派に

故方丈の衣鉢を相続。これに

勝る至宝はありません。益々

のご活躍を祈り上げます。

育英会に南米の方からも

曹洞宗両大本山別院 仏心寺 南アメリカ

采川道昭老師

『成寿』拝受致しました。

晋山結制の盛榮洵にお目出度く、心よりお祝い申し上げま

す。

常々大変お世話になつておりますが、このところ多忙を理由に御無沙汰致しております、

俊雄方丈が若き日に侍者とし

誠に申し訳ございません。

貴寺留学僧育英会の方にも

御縁がありました南米の方

からも応募させて頂き度く存

知ております。その折はまた

更に御法愛賜りますようお願

い申し上げます。

末筆ながら、尊大宗師益々

御法身堅固にて寺門の更なる

御繁栄を祈念申し上げ寸書に

て御札申し上げます。

御母堂様に何卒よろしく御

風声下さいます。



宮崎行学教育英生奨学金を

ドイツ

中川正壽老師

皆様ご清祥にお過ごしのこと
と存じます。

さてこのたび普門寺ご開

山、本山七十八世宮崎奕保禪

師がご遺言としてこのドイツ

普門寺に三度目として多額の

ご寄付を下さいました。以降

どのような形で使わせていた

だくべきかを考えて参りました

た。結論は御遺意の全額をこ

の普門寺において『宮崎行学

育英生奨学金』の基金とさせ

ていただきましたことによれば

た。

昨春にあつてはまだ予定の

段階であります冬四月の集

修（私どもはクラウゼー

ルと名付けておりますが、坐

禅中心の冬安居であります）

をただいま勤めております。

私どもスタッフ三人のほかに

四ヶ月修行するのはイスラム人

女性一人、一月、二月と二ヶ

月参加するものはさらに男性

二人、女性一人でありますが、

昨年の臘八摂心、年末六日

間の歳代わりレトリート、そ

してサンガ中心メンバーの摂

心とそれぞれに十人、二十人

の参加がありました。そして

二月には三週間の涅槃会摂心

をいたします。奨学金は、これらを参加して安居を修行する四ヶ月また二ヶ月参加者で三十五歳以下の者を対象にいたします。いまのところ全費用の半額、例外として全額の支給としております。

昨年十一月より普門寺の実情にあつた四ヶ月安居をスタートいたしまして、力強い手応えを感じております。これをもって、随喜の参禅者はたとえ一人二人であろうとも、ドイツ普門寺はより一層ヨーロッパの地に根付いた道場になりました。大悲山経営の実情は、コースの参加者はそれ程増えず、このたび四ヶ月に

わたる安居を実施いたしましたので、この面さらに収入が減りますが、幸いいろいろなタイプの寄付の合計が年間数百万元になりますので、赤字すれすれのところで均衡しております。これらの寄付は私どもの活動への支援であり毎年少しづつ増えておりますので、門戸を開きつつもより一層坐禅弁道に勤めたく存じます。

御高徳を繼承され御精進を
天嶽院住職 嶋崎興道老師
藤沢市
萬山綠翠の好季節益々接化無辺の趣き大慶至極に存じ上げます。

『成寿』第四十一巻有難く拝受致しました。篤くお礼申し上げます。

此度晋山式を挙行された由心よりお祝い申し上げます。
先代様の御高徳を繼承され御精進の御様子何よりも法悦至極に存じ上げます。

先代様、黙仙寺様共々尚春秋にとむ惜しい方が化を他界どうぞご健勝の上さらなる活躍を祈念申し上げます。

に任され宗門の為にも残念至極に存じます。

山僧今年は九十二才の老骨

となり未だに醜をさらしております。慚愧至極に存じております。近く画竜点睛の後継者を得、宗門にも復帰の心算でおります。何卒御法愛の程お願い申上げます。

梅雨の季節を迎えます。何卒御法体御自愛御保養専一を切に祈念申上げます。

昔を想い出しつつ

東郷優様
神戸市

『成寿』四十一号誠に有難

う御座居ました。充実した紙面、一行たりとも見逃さず心から拝読しました。

晋山式の特集に身心熱く洗われました。先代さまも、遠く高いところから喜んで見て居られるようです。

「牛に引かれて善光寺参り」

前平院代さま、感動しました。

成寿山善光寺の建立に社長以下、社員も動員され、寺を作

る等、夢想もしませんでした。

当時、私は役員の一人として、工場長をしていました。工場

内に百八畳の道場をもつており、そこで黒田方丈の坐禅佛法、社長の篤い信仰、弟敏が

取締役営業本部長として全国

津々浦々奔走し開創資金をかき集め、浄財の相当額を手にした当時が懐かしいです。限られた時間に一所懸命でした。また当時何度も永平寺参禅しましたが、加藤照雄老師（倫子さまのお父上）は、永平寺単頭としておられ、厳しい参禅のご指導には身も心も底ひるむ思いでした。

善光寺建立も、急速に進み、黒田方丈、村岡社長、敏の一心不乱と云うか大きな目標に向かって進む、一致団結の情熱は本気で世界を救済するんだというあの氣概。忘れることはできません。この思想と理念は見事博志住職に継承さ

れ、善光寺を前途洋々望むことができます。

どうぞ皆さま神戸にいらして下さい。ナリスの成寿殿には開基村岡満義、黒田大圓武志大和尚が祀られており、全国、海外からもお参りが絶えることはありません。ご案内します。

私も八十路の道程です。外出も容易ではありませんが、ゆつくり『成寿』を拝読して

心安らかにしております。

皆さまお元気で達者にお過ごし下さい。有難う御座居ました。

純粹さと親しみ易さ

黛 亨様

いつも『成寿』ありがとうございます。毎回、個性的な表紙の絵、きれいなカラー写真をふんだんに取り入れ、紙質も良く、力を入れた編集と

なつていて、感心させられます。

方丈は、またいつも釈尊といいう原点に立ち返って、明惠上人のように釈尊を慕い、仏教の再興を願った、情熱溢れる宗教心の持ち主でもあります。そして「仏教は人にあ

は、どんな地位や名譽ある立場にあっても、押しなべて、子供らしい純粹さと親しみ易い庶民的性格をもつておられるようです。上がれば上がるほど、下がつてくる、そういう方丈の人格が、私には、魅力でした。宗教の枠を超えたものを感じたのです。

黒田武志方丈ご逝去されて、はや七年になりますね。早いものです。最初にお会いした時の方丈の童顔や親しみ易い人格が今でも鮮やかに浮かんできます。

宗教家として名の通つた人

は、どんな地位や名譽ある立場にあっても、押しなべて、

子供らしい純粹さと親しみ易い庶民的性格をもつておられ

るようです。上がれば上がるほど、下がつてくる、そういう

う方丈の人格が、私には、魅

力でした。宗教の枠を超えた

丈は善光寺だけでなく、曹洞宗だけでなく、日本仏教、世界の仏教を見つめていた将来に必要な方で、本当に惜しい人材でした。タイ、スリランカへ飛躍されたのも、方丈にとって必然の道だつたようと思われます。

それに奥様をみんなの前でも紹介し、持ち上げていた姿が、ほほえましく思いだされます。

今、日本だけでなく、米国、歐米も、世界が混乱の極にあります。これは簡単に言えば、精神、魂の混乱、また宗教の混乱と見て間違いないでしょう。人類の心が收まらなければ

丈は善光寺だけでなく、曹洞

ば、平和は来ることはありえないと思われます。

そういう意味でも、まず仏教の世界では、釈尊の原点にかえって、釈尊の人格、宗教心を現代によみがえらせることが、大切ではないでしょうか。

か。釈尊の「ダイバダッタは私の師」と言つた精神、ほかの宗教者には「あなたがあなたの宗教を究めれば、私の弟子」と言つた心、雷が鳴つても、気づかなかつたほどの精神集中と統一、王様にも遊女にも分け隔て無く相対した精神（一切の差別を越えていた）、そして八正道の実践、挙げればきりのない釈尊の基

本的な宗教心（永遠の生命・不死の生命）を、もういちど復活しなければならないのではないでしょうか。

そして、もはや仏教だけでは、平和をもたらすことはできません。みんなといかに提携して、世界的困難に立ち向かうか。それが今後の仏教の大きな課題だと思います。方丈の願いであつた仏教の再興、釈尊の平和への回帰、世界の諸宗教との提携を、ぜひとも実現できる方向へ頑張ってください。

寒さひとつしお身に応える頃となつてまいりました。ご自愛くださいますよう。ご母堂

さんをはじめ、皆様によろしくお伝えください。

**大圓武志大和尚様が
バツクで**

アンティーク青年会会長
平塚市
山口義男様

思われた事だと思いますが、私はあのお言葉が「卒業論文」で新しい三世のご誕生と思つています。新しい善光寺さんを期待しています。この目で見れる事を楽しみにしています。

もう少しで温かい春がやつ

ななか温かくなりません

ね。此度は想い出となる「授

衣式」に参列させて頂き又お

写真をお送り下さり有難うございました。心より感謝とお

下さい。

札を申し上げます。

親切丁寧な筆使いご性格そのままですね。ご挨拶の時は大圓武志大和尚様がバツクで：私を含めほとんどの方が

東野光生様
横浜市

【平成二十三年六月】

梅雨にさしかかる鬱陶しい日々、相変わらず御精励の毎日をお過ごしのことと拝察致します。

過般は御多忙の中賞状をお送り下さり洵に有難うございました。

お陰様で展覧会も恙無く終了し、震災後の時節にも拘わらず、来場者の数も殊の外多かったことは幸いででした。

また頂戴した賞状は、月末に開かれた九段のアルカディ

ア市ケ谷での授賞セプショ
ンで、トルコ大使館大使選賞、
鎌倉・安國論寺記念選賞、世
界遺産・青岸渡寺滝寿賞と共に
に恙無く本賞該当者に手渡さ
れました。

御厚誼ここにあらためて厚
く御禮申し上げます。

今回の授賞式にはトルコ大
使が通訳官を連れてわざわざ
お見えになり、宴に花を添え
て頂きました。また先日桐ヶ
谷寺で聞かせて頂いた岡田修
さんの津軽三味線の演奏も再
現し、楽しい一夜でした。

今年ももうなつかば近くにな
りました。

これから来年の春頃まで、

御多忙の御身どうぞ御無理

なさらず御自愛のほどを。
【平成二十四年二月】

過般は善光寺恒例の式典に
参列出来ず、洵に失礼致しま
した。またこのたびの拙展に
際しては、過分の御祝儀を頂
戴致し、重ね重ね恐縮に存じ
ます。有難うございました。

御礼此処にあらためて申し上
げます。

お蔭様で拙展も恙無く終了

小生は多忙な日々が続きそう
です。
どうぞ今後共末長き御高誼
のほど宜しくお願ひ申し上げ
ます。

小生のDVDは今秋頃に出
る予定です。どのようなもの
になるのか分かりませんが、
博志方丈様には、まず第一に
お届けしたいと思っておりま
す。

では又、寒さ未だ厳しき折、
どうぞ御自愛下さいますよ
う。先ずは取り急ぎ御礼まで。

益々励まされた気持ちで

埼玉県行田市
小野義彦様

さて、過日は、突然の来寺にもかかわらず、心温まる厚いおもてなしを賜りまして、深く感謝申し上げております。

博志老師、大奥様、そして若奥様の、それぞれ慈愛あふれる笑顔と御言葉をいただき、益々励まされた気持ちで

おります。

なき方丈様との御因縁は、一言では申せませんが、今になつても、叱られているよう

な気持ちになることも、思わず笑いがこみ上るようなこともあります。かつてロスアンドジエルスにて元気な方丈様と共に、飲んだり食べたり、沢山の御土産を頂いたり、車で色々な所をご案内申し上げたり、観光でご一緒した時のことなどが、きのうの事のように、思い出されます。

前角老師や桐ヶ谷寺様とのご縁も含めて、本当に有難いことと感謝申し上げております。

愚僧は近く、渡り鳥よろしく、少し暖かい日々に越冬を兼ね修行にまいりますが佛法を行じる佛僧として、皆様の

御法愛を励みに、精進に励む志を新たに致しております。

それでは、博志老師、大奥さま、若奥様はじめ善光寺山内の皆々様に於かれましては、どうぞご健勝にて、益々のご多幸とご発展を心より祈念申し上げております。合掌





The story of Gopala
9th century